

歯周病の治療(総論)

歯周病予防のため、6か月に一度は歯科医院でクリーニングをしましょう。

歯周病は全身の病気と深い関わりをもつといわれています。日本歯周病学会にご協力をいただき、歯周病についてのお話をうかがえます。
第17回は「歯周病の治療(総論)」です。

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 歯周歯内治療学分野

よしむら あつとし
吉村 篤利教授

日本歯周病学会理事、日本歯周病学会専門医・指導医



1989年長崎大学歯学部卒業、1993年長崎大学大学院歯学研究科博士課程修了、2018年より現職。

いわた みさき
岩下 未咲准教授

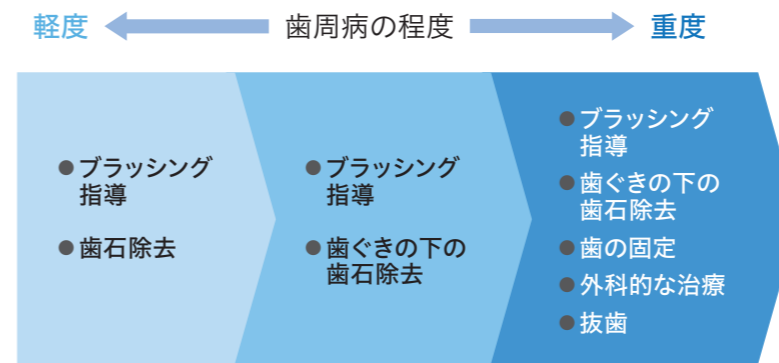
日本歯周病学会認定医

2006年岡山大学歯学部卒業、2011年広島大学大学院医系科学研究科博士課程修了、2023年より現職。

はじめに

歯周病は、歯と歯ぐきの間の溝(歯周ポケット)にたまった細菌のかたまり(プラーク)がおもな原因となって、歯を支えている歯ぐきや骨などの組織(歯周組織)が破壊される病気です。歯周病の進行程度によって治療内容は異なります(図1)。

図1 歯周病の程度とおもな治療内容



治療手段がなく抜歯せざるを得ない場合もあります。そのため、歯周病をできる限り早期に適切に治療することが重要です。

歯周病の治療の流れ

歯周病の治療を始めるにあたっては、エックス線検査や、歯周組織の炎症状態の検査などによる歯周病の進行状況の把握に加えて、全身の健康状態や家族歴および、喫煙、食習慣、ストレスなど歯周病のリスクになるものについて問診を行います。検査の結果と問診で得られた情報をもとに病状の重症度や将来的な見通しを判定し、患者さん個々の状況に応じた治療計画を立てて治療を進めていきます。

全身疾患のなかでも特に糖尿病は歯周病との関わりが深いことがわかっていますので、治療を進めるうえで血糖コントロールの状態を正確に把握する必要があります。

初期の治療(歯周基本治療)

歯周病の治療はステージに分かれていて、ステージごとに治療の結果について評価(再評価)し、必要に応じて治療計画に修正を加えて、次のステージに進みます(図2)。

すべての歯周病患者さんに対して行う基本的な治療です。具体的には、①プラーク、歯石、そのほかの歯や歯の根の表面の付着物を取り除く、②ブラー

状態の維持と進行・再発の防止

歯周基本治療、歯周外科治療によって十分な改善がみられてから、必要に応じてかぶせ物やインプラント、矯正などかみ合わせや歯並びの治療に移ります。歯周病が治癒した、もしくは、状態が安定したと判断された場合にも、その状態を維持するためには継続的な歯科受診が必要です。

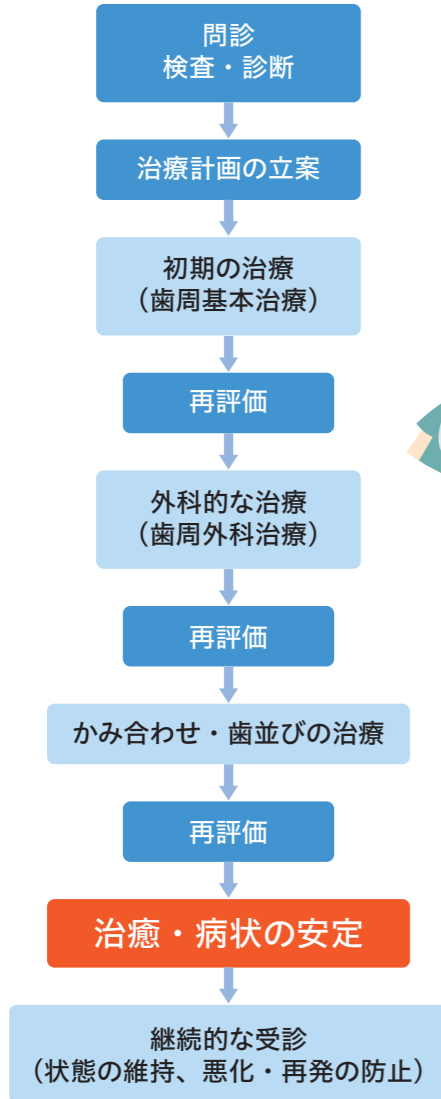
一度健康な状態を回復しても、セルフケアが不十分だったり何年も歯科受診が途絶えたりすると再発する場合があります。適切な受診の間隔は患者さんの状態によって異なりますが、定期的に必要検査や処置を受けることは患者さん自身がモチベーションを保つことにもつながります。

最後に

歯周病の治療は、毎日のセルフケアや生活習慣の改善など、患者さんの協力がなくては良い成果を得られにくくなってしまいます。歯周病の状態や治療の必要性、治療方針について患者さんに十分にご理解いただいたうえで根気よく受診を継続いただくことが大切です。

今回は「プラークコントロール」です。

図2 歯周病の治療の流れ



外科的な治療(歯周外科治療)

歯周基本治療では十分に改善しなかった部分に対して行う外科的な治療です。

クがたまりやすいお口の中の環境を改善する、③かむ力をコントロールする、などが含まれます。この期間に、患者さんの治療意欲を高める、ご自身でのお口の清掃(セルフケア)を習慣づける、歯周病に悪い影響を及ぼすような生活習慣を改める、などにつながるような工夫をしながら治療を進めます。

進行した歯周病の場合、歯周基本治療のみでは深い歯周ポケットが残ることがしばしばあります。歯周基本治療の後の歯周組織の状態の検査(再評価)の結果、外科的な治療が適していると判断した場合に実施します。歯周基本治療による改善が不十分な患者さんすべてに対して行うわけではなく、患者さんの全身状態、喫煙やセルフケアの状況などをふまえて適応かどうかを判断します。歯周外科治療の目的には、歯周ポケットを浅くするまたは取り除く、歯周組織を再生させる、歯を磨きやすいように歯ぐきや粘膜の形を整える、などがあり、目的に合った手術方法を選択します。通常は局所麻酔のみで行い、入院の必要はありません。